

特別展「アンダー×ワンダー！—北東北の考古学最前線—」 展示報告

吉川耕太郎*

1. はじめに

当館では常設展示のほか、企画展示室で年間3回の企画展と1回の特別展を開催している。特別展は通常、秋田県に限らず地域を広く設定して企画し、当館唯一の有料展となる。小稿では、平成24年9月22日（土）から11月25日（日）までの約2か月間開催した特別展「アンダー×ワンダー！—北東北の考古学最前線—」について報告する。平成16年度の当館リニューアルオープン以来、初の本格的な考古学の特別展となる。

本特別展のキーワードは「驚きと感動」である。秋田県を中心に北東北地方の考古遺跡から出土した資料を通して、原始・古代の人々が自然とどのように向き合って独自の文化と地域性を形作ってきたのかを考え、そこに「驚きと感動」の物語を観覧者に感じてもらうことを大きな目的とした。そして、日本史の中では「周縁」に追いやられている北東北の歴史と文化を最新の考古学的成果で見直すことによって、「新たな北東北像の構築」へと繋いでいく足掛かりとして本特別展を位置づけた。

2. 展示立案までの経緯

本県では北海道・北東北三県（青森県・秋田県・岩手県）で「北の縄文遺跡群」世界文化遺産推進事業に取り組んでおり、当館を管轄する生涯学習課からはできれば世界遺産と関連した展示をとの意向が示された。また、当館では平成16年以降、3年おき3回にわたって青森県立郷土館、岩手県立博物館と共同で巡回企画展示を実施してきた。最後にあたる平成22年度には考古・歴史系の特別展「境界に生きた人々」を開催した。これは古代を中心に、北と南の文化のはざまに揺れ動いた北東北地方の歩みを浮き彫りにしようと企画したものであり、今後より深められるテーマであった。

以上のことを踏まえて、館内で展示の方向性を検討した結果、青森県・秋田県・岩手県の縄文時代～古代を中心とした考古資料の優品が一堂に会する展示を立案し、企画書と予算書を作成した。とくに先の「境界に生きた人々」展で目指した北東北の地域的独自性は、現在、世界文化遺産の登録を目指している縄文時代までを対象としたほうがより鮮明になると考えたため、今回は前回の特別展では取り扱えなかった部分を補完するものとして位置付けた。

3. 展示の工程

12月下旬	展示企画書・予算書の立案、生涯学習課への説明資料の作成
1月～2月	予算関連資料の作成と見直し
2月末以降	秋田県・岩手県内での資料調査
3月	展示企画書・予算書の作成
3月以降	借用資料の選定と借用交渉
4月	必要物品の購入
4月～7月	展示タイトル・レイアウトの検討
6月上旬	青森県内での資料調査
7月	展示解説資料の作成と起案
8月	東京都内での資料調査
8月中旬	ポスター・チラシの納品と関係各所への配送
8月31日～9月7日	全館燻蒸のため閉館
9月4日～9日	美術専用車による借用
9月上旬	報道各社へのプレスリリース
9月中旬	展示解説資料の納品
9月22日	特別展開展
11月25日	特別展閉展
11月26日～28日	企画展示室の撤収作業
11月29日以降	借用品の返却

* 秋田県立博物館

開展前に3回の展示スタッフ会議、展示期間中は、後述する付随事業のほか、ポスター・チラシ配布の継続と各新聞紙上・広報誌等への展示関連記事の掲載、テレビ・ラジオでの広報等を行った。

4. 展示趣旨

以下が展示趣旨である。

「北東北地方は本州島最北端、北は北海道以北に広がる北方アジア文化圏、南は南東北・関東地方以南の列島中央文化圏には含まれた地域にあり、日本史における周縁・辺境の地としてマイナスのイメージとともに従来位置づけられてきた。しかし、近年の考古学的成果は、北東北の大自然の中で栄えた独自の文化の存在を明らかにしつつある。考古資料は原始・古代の人々が北東北で生きた直接的な証であり、記憶が刻まれた文化遺産である。本展示では、厳しくも豊かな自然に包まれた北東北を舞台として後期旧石器時代から平安時代にいたるまでの人々が育んできた文化について、私たちの心と感性を刺激するチカラをもった考古資料を中心に紹介する。また、地域特性や考古資料を理解する一助として、動植物標本などの自然史系資料、マタギ等の民俗資料をあわせて展示し、『真の豊かさ』について問いかける。本特別展は、大自然とともに生き、またその自然を壊しもする人類の叡智と業、そのなかで独自の基層文化を築いた北東北の人々の原始・古代史像について理解を深め、北東北の自然と文化について考えることを目的とする。」(企画書からの引用)

今回の展示では考古学に対して興味が低い人にも足を運んでもらい、楽しめるような展示を目指すこととした。

5. 展示スタッフの構成

今年度から展示担当複数制を導入した。本特別展では表1のように組織した。従来は展示担当者1名にかかる負担が大きかったが、複数制の導入によりその軽減を図り、主担当者が展示の中身により専念できることを目的としつつ、若手職員の育成にも貢献できると期待されてのものである。実際の展示においては、展示・資料班員も加わったの作業となった。また、秋田魁新報社、朝日新聞秋田総局、NHK秋田支局、秋田放送、秋田テレビ、秋田朝日テレビからは後援を頂いた。

6. 展示スタッフによる会議を経て

展示資料・レイアウトについて吉川作成のものを叩き台にして検討を進めた。とくに、自然体感型の展示を一つの核としたため、生物部門との連携が欠かせなかった。このため、コンセプトを共有できるように心がけた。露出展示を中心として、ほかに聴覚と嗅覚に訴える展示を考えた。聴覚については、展示室内に森と海のBGMをかけることとした。嗅覚については、森のアロマを検討したが、結果的に資料に与える影響などを考慮し、断念した。

展示タイトルは、企画初段階では「北東北のかたち展」とした。しかし、当館運営協議会の委

表1 特別展「アンダー×ワンダー！」展示スタッフの構成

チームリーダー (吉川耕太郎)
総括、企画立案、資料借用(考古)、演示具・解説パネル・キャプション等作製、パンフレット執筆・監修、渉外、講演会関係、ミュージアムショップ・喫茶等との連動企画
サブリーダー (船木信一)
第2章「豊饒の大地」企画・展示、ポスター・チラシ作製、展示全般補助
チームメンバー (高橋正)
コラム「民俗の世界から」展示、資料借用・展示(歴史・民俗)、東京国立博物館申請事務、博物館ニュース原稿
チームメンバー (梅津一史)
展示全般補助、パンフレット展示担当執筆、資料借用、第2章展示
チームメンバー (中村美也子)
重要文化財公開申請事務、区市町村指定文化財関係事務、バナー・演示具・解説パネル等作製、パンフレット起案、工程・予算・物品管理、講演会準備

員からは「タイトルが曖昧で、ありきたりである。もっとインパクトのあるタイトルを」との提案があったため、館職員からタイトルを募った。約60に及ぶ案の中から最終的に選ばれたのは「アンダー×ワンダー！」であり、次点となった「北東北の考古学最前線」をサブタイトルとして使用することとした。「アンダー×ワンダー！」は、考古資料は地面の下、つまり、“アンダーグラウンド”にあって、そこには私たちの知らない驚きの世界、“ワンダーランド”が広がっていた、という含意である。

観覧料は、当初、一般600円として予算に組み込んでいた。しかし、集客面での配慮から、最終的に一般500円、大学生以下無料ということにした。

図録は、当初予算では盛り込まれていなかったが、図録を発行することの少ない当館の展示会では、来館者から「図録はないのか」という声がよく聞かれた。そのため、予算を捻出し、「展示解説資料」としてB5判・20頁・4色刷の小冊子を4,000部作ることとした。本解説資料は有料観覧者に限定して配布することとした。

7. 展示概要

①各章の構成

本特別展は7章構成で、そのほかにコラム展示3本を用意した。章の構成と平面レイアウトは次のとおりである（図1）。

エントランス・導入部

1. 氷河の森から【後期旧石器時代】
2. 豊穡の大地、豊かな舞台～厳しさと優しさのかたち～【自然環境】
3. JOMON 大自然のふとこで【縄文時代】
4. 自然と家族 祈りのかたち【縄文時代】
5. コメとの遭遇【弥生・古墳時代】
6. KODAI「日本」のなかへ【奈良・平安時代】
7. 平泉の祈り【平安時代】

コラム. 最古もの!?

コラム. ホンモノ?ニセモノ?

コラム. 民俗の世界から

原始・古代人へのメッセージボード

②展示資料

取り上げた遺跡数は104、国宝（複製）4点、重要文化財（複製含む）30点、重要美術品1点を含み、総点数は約900点にのぼった（表2）。考古資料の他に生物・地質・歴史・民俗各部門の協力も得て資料を展示した。

今回の目玉とした展示品は、岩手県盛岡市葦内遺跡出土の大型土偶頭部（重要文化財・文化庁蔵・岩手県立博物館保管）、青森県八戸市風張I遺跡出土の合掌土偶（国宝・複製・八戸市是川縄文館蔵）、長野県茅野市棚畑遺跡出土の「縄文のビーナス」（国宝・複製・尖石縄文考古館蔵）、後三年合戦絵詞（個人蔵）、岩手県平泉町柳之御所出土品（重要文化財・岩手県蔵）などである。

このうち、大型土偶頭部は、昨年3月に北海道開拓記念館でも特別展「北の土偶展」にて30日間展示されている。公開日数60日間という文化庁による重要文化財の規定のため、本特別展では9月22日～10月21日と特別講演会開催日前後の11月1日～4日に期間を限定して展示することとした。

③資料の主な借用先

借用先は本県その他、青森県・岩手県・宮城県・新潟県・長野県・東京都にわたって、約40の関係各機関・個人から借用した。主な借用先は次のとおりである。

【青森県】青森県教育庁三内丸山遺跡保存活用推進室・青森県立郷土館・青森県埋蔵文化財調査センター・三戸町教育委員会・つがる市教育委員会・八戸市是川縄文館・弘前大学亀ヶ岡文化研究センター

【岩手県】岩手県立博物館・岩手県文化振興事業団・滝沢村埋蔵文化財センター・遠野市教育委員会・花巻市総合文化財センター

【秋田県】秋田県埋蔵文化財センター・秋田県弘田柵跡調査事務所・鹿角市教育委員会・北秋田市教育委員会・上小阿仁村教育委員会・五城目町教育委員会・能代市教育委員会・三種町教育委員会・秋田市教育委員会・由利本荘市教育委員会・横手市教育委員会・秋田大学大学院附属鉱業博物館

【宮城県】東北大学考古学研究室

【新潟県】新潟県立歴史博物館

【長野県】尖石縄文考古館

【東京都】 東京国立博物館・文化庁・明治大学博物館

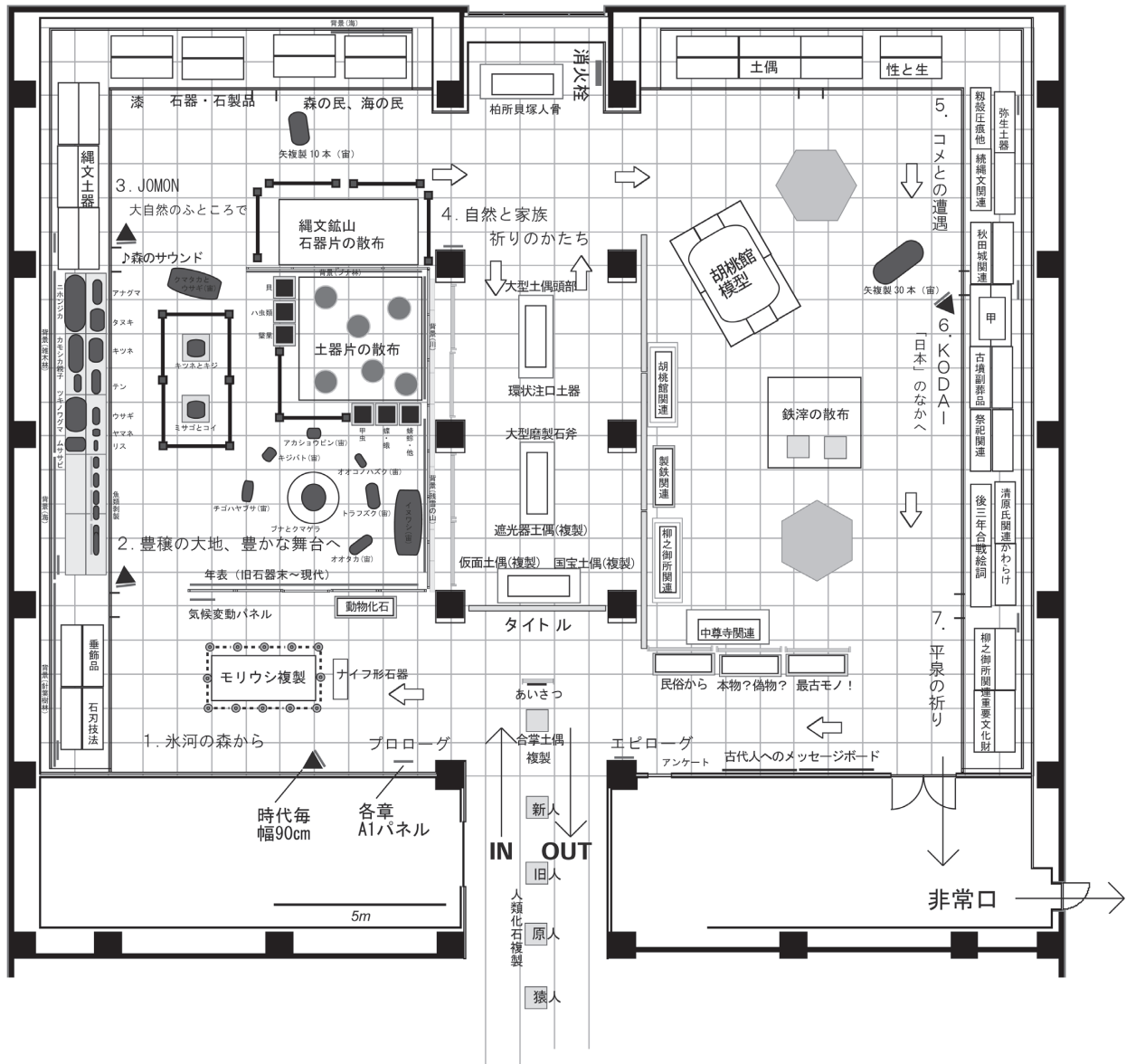


図1 特別展「アンダー×ワンダー！」平面レイアウト

表2 特別展「アンダー×ワンダー！」主要出品資料リスト

プロローグ							
No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の状態・年代	出土地	指定関係	備考
1	猿人頭骨（複製）		秋田県立博物館	前期旧石器	アフリカ		
2	原人頭骨（複製）		秋田県立博物館	前期旧石器	アフリカ		
3	旧人頭骨（複製）		秋田県立博物館	中期旧石器	ドイツ		
4	人頭骨	熊穴洞穴	岩手県立博物館	縄文	岩手県		
5	合掌土偶（複製）	風張1遺跡	八戸市是川縄文館	縄文後期	青森県		
第1章 氷河の森から【後期旧石器時代】							
No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
6	ナイフ形石器	家の下遺跡	三種町教育委員会	後期旧石器	秋田県三種町		
7	動物化石（複製）	豊川	秋田県立博物館	更新世	秋田県湯上市		
8	ナイフ形石器	風無台I遺跡	秋田市教育委員会	後期旧石器	秋田県秋田市		
9	ハナイズミモリウシ（複製）	花泉	岩手県立博物館	更新世	岩手県		
10	磨製石斧	小出I遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	後期旧石器	秋田県大仙市		
11	石刃・ナイフ形石器	芹川館跡	秋田県埋蔵文化財センター	後期旧石器	秋田県能代市		
14	環状石製品	鴨子台遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	後期旧石器	秋田県能代市		
15	滑石製垂飾品	峠山牧場I遺跡	岩手県文化振興事業団	後期旧石器	岩手県		
第2章 豊饒の大地、豊かな舞台へ【自然】							
No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
16	ブナ（クマゲラ営巣木）		秋田県立博物館	現代			
17	クマゲラ		秋田県立博物館	現代			
18	ニホンジカ		秋田県立博物館	現代			
19	アナグマ		秋田県立博物館	現代			
20	ニホンカモシカ		秋田県立博物館	現代			
21	ニホンカモシカ（仔）		秋田県立博物館	現代			
22	キツネとキジ		秋田県立博物館	現代			
23	トウホクノウサギ		秋田県立博物館	現代			
24	ホンドギツネ		秋田県立博物館	現代			
25	ホンドタヌキ		秋田県立博物館	現代			
26	ホンドテン		秋田県立博物館	現代			
27	ツキノワグマ		秋田県立博物館	現代			
29	ムササビ		秋田県立博物館	現代			
30	ホンドリス		秋田県立博物館	現代			
31	ツキノワグマ		秋田県立博物館	現代			
32	ニホンカモシカ		秋田県立博物館	現代			
34	キジ		秋田県立博物館	現代			
35	ヤマドリ		秋田県立博物館	現代			
36	ミサゴ		秋田県立博物館	現代			
38	サザエ		秋田県立博物館	現代			
39	ヤマトシジミ		秋田県立博物館	現代			
41	オオタニシ		秋田県立博物館	現代			
42	イガイ		秋田県立博物館	現代			
第3章 JOMON 大自然のふとこで【縄文時代】							
No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
66	浅鉢形土器	向様田D遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
76	壺形土器	伊勢堂岱遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
77	糸玉	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
78	漆織維製品	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
79	漆入り容器	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
86	円筒式土器	池内遺跡	秋田県立博物館	縄文前期	秋田県大館市		
89	多孔底土器	橋場岱A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
95	浅鉢形土器	向様田A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
98	台付浅鉢形土器	白坂遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
99	注口土器	白坂遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
104	香炉形土器	桐内A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
105	片口土器	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
107	高台付浅鉢形土器	堀ノ内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文後期	秋田県湯沢市		
108	香炉形土器	向様田D遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
111	香炉形土器	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
113	三足土器	今津遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	縄文晩期	青森県外ヶ浜町		
114	狩猟文土器	馬立II遺跡	岩手県教育委員会	縄文後期	岩手県二戸市		
115	人面付環状注口土器	白坂遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
116	人面付土器	堀ノ内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文後期	秋田県湯沢市		
117	単孔土器	智者鶴遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文後期	秋田県由利本荘市		
118	注口土器	向様田D遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
125	壺形土器	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
126	土器底部（木葉痕）	堀ノ内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文後期	秋田県湯沢市		
127	多孔底土器	堀ノ内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文後期	秋田県湯沢市		

137	土器失敗品	三内丸山遺跡	青森県教育庁文化財保護課	縄文前期	青森県青森市		
142	藍胎漆器	戸平川遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文晩期	秋田県秋田市		
143	編布	中山遺跡	五城目町教育委員会	縄文晩期	秋田県五城目町	町指定	
144	漆入り容器	中山遺跡	五城目町教育委員会	縄文晩期	秋田県五城目町	町指定	
145	赤色漆塗飾弓	中山遺跡	五城目町教育委員会	縄文晩期	秋田県五城目町	町指定	
149	石斧	鴨子台遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文中期	秋田県三種町		
150	石鏃	八木遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文中期	秋田県横手市		
152	黒曜石製石匙	池内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県大館市		
153	石槍	池内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県大館市		
167	石銛	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
168	石錐	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
169	石槍(北海道産黒曜石)	三内丸山遺跡	青森県教育庁文化財保護課	縄文中期	青森県青森市		
170	石槍未成品	上岩川遺跡群	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県三種町		
180	玉髓製石鏃	十腰内(1)遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	縄文	青森県		
183	探掘原石・残滓	上岩川遺跡群	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県三種町		
185	狩猟文土器(複製)	韭窪遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	縄文後期	青森県八戸市		
187	石製品	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
194	線刻石	小田遺跡	花巻市総合文化財センター	縄文後期	岩手県花巻市		
198	人物線刻のある石冠	近野遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	縄文後期	青森県		
199	線刻石製品	ヲフキ遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文後期	秋田県にかほ市		
204	黒曜石製石銛	小袋岱遺跡	上小阿仁村教育委員会	縄文前期	秋田県上小阿仁村		
205	オオカミ下顎骨製ペンダント	貝島貝塚	岩手県立博物館	縄文後期	岩手県花巻市		
206	貝殻片象嵌土製品	岩谷洞穴遺跡	岩手県立博物館	縄文晩期	岩手県岩泉町		
207	顔面付石製品	八木遺跡	横手市教育委員会	縄文後期	秋田県横手市		
208	サメ歯製首飾り	平鹿遺跡	横手市教育委員会	縄文晩期	秋田県横手市		
210	真珠	岩谷洞穴遺跡	岩手県立博物館	縄文後期	岩手県岩泉町		
211	土笛(中空土製品)	高石野遺跡	三種町教育委員会	縄文晩期	秋田県三種町		
212	環状土器	高石野遺跡	三種町教育委員会	縄文晩期	秋田県三種町		
213	舟形土器	高石野遺跡	三種町教育委員会	縄文晩期	秋田県三種町		
214	注口土器	高石野遺跡	三種町教育委員会	縄文晩期	秋田県三種町		
215	土製腕輪	二重島B遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
220	翡翠大珠	沢田遺跡	秋田県立博物館	縄文中期	秋田県八郎潟町		
221	土版	大湯環状列石	鹿角市教育委員会	縄文後期	秋田県鹿角市		
222	琥珀	狐森遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県三種町		
223	琥珀	二重島A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
224	石槍	狐森遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県三種町		
225	石製品	池内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県大館市		
226	イノシシ形土製品(オス)	立石遺跡	花巻市総合文化財センター	縄文後期	岩手県花巻市		
227	オオカミ顔面付角棒ほか	貝島貝塚	岩手県立博物館	縄文後期	岩手県花巻市		
228	カエル形骨角製品	貝島貝塚	岩手県立博物館	縄文後期	岩手県花巻市		
229	コノハズク形土製品(複製)	草ヶ沢遺跡	岩手県立博物館	縄文晩期	岩手県一関市		
230	クマ形土製品	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
231	サル形土製品	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
232	イノシシ形土製品	藤株遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
233	人面動物形土製品	沼津貝塚	東北大学	縄文晩期	宮城県石巻市	重文	
234	動物形土製品	堀ノ内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文後期	秋田県湯沢市		
235	動物形土製品	沼津貝塚	東北大学	縄文晩期	宮城県石巻市	重文	
236	トリ形土製品	二重島B遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
237	クマ形土製品	尾上山遺跡	青森県立郷土館	縄文後期	青森県弘前市		
238	熊形土製品	十腰内遺跡	東京国立博物館	縄文後期	青森県弘前市	重美	
239	クマの犬歯	アバクチ洞穴	花巻市総合文化財センター	縄文末	岩手県花巻市		
240	クマの頭骨	アバクチ洞穴	花巻市総合文化財センター	縄文末	岩手県花巻市		
245	クマ形土製品	大湯環状列石	鹿角市教育委員会	縄文後期	秋田県鹿角市		
246	貝製腕輪	柏子所貝塚	能代市教育委員会	縄文晩期	秋田県能代市	県指定	
247	環状土製品	向様田D遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
248	魚骨・獣骨	大野地遺跡	能代市教育委員会	縄文晩期	秋田県能代市		
249	クジラ骨	柏子所貝塚	能代市教育委員会	縄文晩期	秋田県能代市	県指定	
251	骨角器	柏子所貝塚	能代市教育委員会	縄文晩期	秋田県能代市	県指定	
254	人骨	柏子所貝塚	能代市教育委員会	縄文晩期	秋田県能代市	県指定	
252	鹿角製銛頭	瀬沢貝塚	東京国立博物館	縄文晩期	岩手県陸前高田市		
253	鹿角製鏃	瀬沢貝塚	東京国立博物館	縄文晩期	岩手県陸前高田市		
256	ヤス状刺突具	瀬沢貝塚	東京国立博物館	縄文晩期	岩手県陸前高田市		
260	巻貝形土製品	藤株遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
第4章 自然と家族 祈りのかたち【縄文時代】							
No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
261	大型土偶頭部	萩内遺跡	文化庁	縄文後期	岩手県盛岡市	重文	
262	大形磨製石斧	上押遺跡	秋田県立博物館	縄文前期	秋田県東成瀬村	重文	
263	小形磨製石斧	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
264	人面付環状注口土器	狐森遺跡	秋田県立博物館	縄文後期	秋田県三種町	重文	

265	仮面土偶（複製）	中ッ原遺跡	尖石縄文考古館	縄文後期	長野県	(重文)	
266	土偶胸部	藤株遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
268	岩偶	白坂遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
269	岩偶	向様田A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
271	岩偶	藤株遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
272	岩偶	提鍋遺跡	由利本荘市教育委員会	縄文晩期	秋田県由利本荘市		
273	岩偶	湯出野遺跡	由利本荘市教育委員会	縄文晩期	秋田県由利本荘市		
275	岩偶	向様田D遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
276	岩偶	池内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県大館市		
279	屈折像土偶	日戸遺跡	岩手県立博物館	縄文後期	岩手県盛岡市		
280	遮光器土偶（複製）	手代森遺跡	岩手県埋蔵文化財センター	縄文晩期	岩手県盛岡市		
281	立て膝で腕を組む土偶	夫婦石袖高野遺跡	岩手県埋蔵文化財センター	縄文後期	岩手県遠野市		
282	トーテムポール様木製品（複製）	菟内遺跡	岩手県立博物館	縄文後期	岩手県盛岡市		
285	土偶	小袋岱遺跡	上小阿仁村教育委員会	縄文前期	秋田県上小阿仁村		
286	土偶	白坂遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
290	土偶	向様田A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
303	土偶	二重鳥B遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
304	土偶	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
319	土偶	藤株遺跡	東北大学	縄文晩期	秋田県北秋田市		
320	土偶	ヲフキ遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文中期	秋田県にかほ市		
326	土偶	杉沢台遺跡	能代市教育委員会	縄文晩期	秋田県能代市	県指定	
327	土偶	柏子所貝塚	能代市教育委員会	縄文晩期	秋田県能代市		
328	土偶	高石野遺跡	三種町教育委員会	縄文晩期	秋田県三種町		
332	土偶	湯出野遺跡	由利本荘市教育委員会	縄文晩期	秋田県由利本荘市		
334	女陰形石製品	三升刈遺跡	由利本荘市教育委員会	縄文晩期	秋田県由利本荘市		
335	土偶	石神遺跡	由利本荘市教育委員会	縄文晩期	秋田県由利本荘市	市有形	
336	岩偶	提鍋遺跡	由利本荘市教育委員会	縄文晩期	秋田県由利本荘市	市有形	
337	土偶	前通遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文中期	秋田県横手市		
340	土偶	八木遺跡	横手市教育委員会	縄文後期	秋田県横手市		
341	土偶	立石遺跡	花巻市総合文化財センター	縄文晩期	岩手県花巻市		
342	土偶（縄文ビーナス・複製）	棚畑遺跡	尖石縄文考古館	縄文中期	長野県茅野市	(国宝)	
343	土偶（複製）	亀ヶ岡遺跡	つがる市教育委員会	縄文晩期	青森県つがる市		
347	土偶残欠（補修孔）	軽米町地内	東京国立博物館	縄文晩期	岩手県軽米町		
348	土偶頭部	月見岱（7）	青森県立郷土館	縄文後期	青森県青森市		
349	土偶頭部	白坂遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
350	土偶頭部	向様田D遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
351	土偶頭部	漆下遺跡	北秋田市教育委員会	縄文後期	秋田県北秋田市		
360	十字形土偶	唐竹	弘前大学亀ヶ岡文化研究センター	縄文中期	青森県平川市		
361	結髪土偶頭部	亀ヶ岡遺跡	弘前大学亀ヶ岡文化研究センター	縄文晩期	青森県つがる市		
362	中実土偶	出土地不明	弘前大学亀ヶ岡文化研究センター	縄文晩期	出土地不明		
363	中実土偶	薬師遺跡	弘前大学亀ヶ岡文化研究センター	縄文晩期	青森県弘前市		
364	中実土偶	今津遺跡	弘前大学亀ヶ岡文化研究センター	縄文晩期	青森県外ヶ浜町		
365	土面（複製）	麻生遺跡	秋田県立博物館	縄文晩期	秋田県能代市		
366	鼻形・耳形土製品	立石遺跡	花巻市総合文化財センター	縄文晩期	岩手県花巻市		
367	板状土偶	坂ノ上F遺跡	秋田市教育委員会	縄文中期	秋田県秋田市		
368	板状土偶	橋場岱A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
369	人形垂飾品	二重鳥A遺跡	北秋田市教育委員会	縄文晩期	秋田県北秋田市		
370	人形付土器	けやきの平遺跡	滝沢村埋蔵文化財センター	縄文後期	岩手県滝沢村		
371	土偶	大湯環状列石	鹿角市教育委員会	縄文後期	秋田県鹿角市		
378	足形土製品	大湯環状列石	鹿角市教育委員会	縄文後期	秋田県鹿角市		
379	板状土偶	三内丸山遺跡	青森県教育庁文化財保護課	縄文中期	青森県青森市		
380	足型土製品	湯舟沢遺跡	滝沢村埋蔵文化財センター	縄文後期	岩手県滝沢村		
381	足形付土製品	上山遺跡	東京国立博物館	縄文後期	新潟県村上市	重文	
382	おんぶする土偶（複製）	上上田貝塚	新潟県立歴史博物館	縄文中期	石川県かほく市		
383	人面付土製品	沖中遺跡	三戸町教育委員会	縄文晩期	青森県三戸町		
384	だっこする土偶（複製）	宮田遺跡	新潟県立歴史博物館	縄文中期	東京都八王子市		
385	手形・足形土版	大石平遺跡	青森県立郷土館	縄文後期	青森県六ヶ所村	重文	

第5章 コメとの遭遇【弥生時代・古墳時代】

No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
386	弥生土器	地蔵田遺跡	秋田市教育委員会	弥生前期	秋田県秋田市		
387	弥生土器		秋田市教育委員会	弥生前期	秋田県秋田市		
388	石鏃・石匙	地蔵田遺跡	秋田市教育委員会	弥生前期	秋田県秋田市		
389	炭化米	横長根遺跡	秋田県立博物館	弥生前期	秋田県男鹿市		
391	籾殻片痕土器片	志藤沢遺跡	秋田大学鉱業博物館	弥生前期	秋田県男鹿市		

第6章 KODAI「日本」のなかへ【平安時代】

No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
393	後北式土器	寒川Ⅱ遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	古墳	秋田県能代市		
394	衝角付甕（複製）	上田蝦夷森古墳	岩手県立博物館	古墳	岩手県盛岡市		
395	黒曜石	寒川Ⅱ遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	古墳	秋田県能代市		

396	黒曜石	田久保下遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	古墳	秋田県横手市		
397	須恵器坏	田久保下遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	古墳	秋田県横手市		
398	鉄製品	田久保下遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	古墳	秋田県横手市		
399	土師器坏	田久保下遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	古墳	秋田県横手市		
400	漆紙文書	秋田城跡	秋田城跡調査事務所	平安	秋田県秋田市		
402	瓦	秋田城跡	秋田城跡調査事務所	平安	秋田県秋田市		
403	鉄刀	湯ノ沢F遺跡	秋田市文化振興室	平安	秋田県秋田市		
404	藤手刀	岩野山古墳群	五城目町教育委員会	平安	秋田県五城目町		
405	毛抜形太刀	岩野山古墳群	五城目町教育委員会	平安	秋田県五城目町		
406	木簡	払田柵跡	払田柵跡調査事務所	平安	秋田県大仙市		
408	絵馬(複製)	払田柵跡	払田柵跡調査事務所	平安	秋田県大仙市		
410	人面墨書土器(複製)	秋田城跡	秋田県立博物館	平安	秋田県秋田市		
411	灯明皿	樋口遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県能代市		
412	木簡1	胡桃館跡遺跡	北秋田市教育委員会	平安	秋田県北秋田市	重文	
414	墨書土器	厨川谷地遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県美郷町		
419	木簡	厨川谷地遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県美郷町		
420	ツキノワグマ骨	外荒巻遺跡	能代市教育委員会	古代	秋田県能代市		
421	非鉄製小札	秋田城跡	秋田城跡調査事務所	平安	秋田県秋田市		
422	鉄鏃	秋田城跡	秋田城跡調査事務所	平安	秋田県秋田市		
423	埋没家屋(復元)	胡桃館跡遺跡	秋田県立博物館	古代	秋田県北秋田市		
424	梯子	胡桃館跡遺跡	北秋田市教育委員会	平安	秋田県北秋田市	重文	
425	越州窯産青磁・緑釉陶器	小林遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県三種町		
426	鉄製品関連	小林遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県三種町		
435	鉄製品	釈迦内中台I遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県大館市		

第7章 平泉の祈り【平安時代】

No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
452	かわらけ	大鳥井山遺跡	横手市教育委員会	平安	秋田県横手市		
454	内耳鉄鍋	陣館遺跡	横手市教育委員会	平安	秋田県横手市		
455	かわらけ	虚空蔵大台滝遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県秋田市		
456	銅製小塔	虚空蔵大台滝遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	平安	秋田県秋田市		
457	墨書土器(複製)	柳之御所遺跡	岩手県教育委員会	古代	岩手県奥州市	(重文)	
458	土師器坏	柳之御所遺跡	岩手県教育委員会	古代	岩手県奥州市	重文	
460	墨書折敷(複製)	柳之御所遺跡	岩手県教育委員会	古代	岩手県奥州市	(重文)	
461	漆漉し布	柳之御所遺跡	岩手県教育委員会	古代	岩手県奥州市	重文	
462	漆篋	柳之御所遺跡	岩手県教育委員会	古代	岩手県奥州市	重文	
463	金鉢石	柳之御所遺跡	岩手県教育委員会	古代	岩手県奥州市	重文	
464	将棋駒	柳之御所遺跡	岩手県教育委員会	古代	岩手県奥州市	重文	
466	金銅華鬘(複製)	中尊寺	岩手県立博物館	古代	岩手県奥州市	(国宝)	
467	銅製六器	河崎の柵擬定地	岩手県教育委員会	古代	岩手県一関市		
468	火舎(複製)	柳之御所遺跡	岩手県立博物館	古代	岩手県奥州市		
469	花瓶(複製)	柳之御所遺跡	岩手県立博物館	古代	岩手県奥州市		
470	石塔(複製)	中尊寺	岩手県立博物館	古代	岩手県奥州市		

コラム 最古もの!?

No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
471	石匙	岩瀬遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文草創期	秋田県横手市		
472	偽石器	金木	明治大学博物館	-	青森県金木町		
473	縄文土器	大平山元I遺跡	青森県立郷土館	縄文草創期	青森県外ヶ浜町		
178	磨製石斧	大平山元I遺跡	青森県立郷土館	縄文草創期	青森県外ヶ浜町		
474	石鏃	大平山元I遺跡	青森県立郷土館	縄文草創期	青森県外ヶ浜町		
475	石器	金取遺跡	遠野市立博物館	旧石器	岩手県遠野市		

コラム ホンモノ?ニセモノ?

No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
476	異形石器	ヲフキ遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文中期	秋田県にかほ市		
476	異形石器(偽造)		個人蔵				

コラム 民俗の世界から

No.	資料名	出土遺跡等	所蔵機関	資料の年代	出土地	指定関係	備考
478	鉄砲		秋田県立博物館	近現代			
479	石槍	池内遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	縄文前期	秋田県		
481	樹皮製品	中山遺跡	五城目町教育委員会	縄文晩期	秋田県		
482	ワラダ		秋田県立博物館	近現代			

④展示内容とねらい

【エントランス・導入部】

エントランスは宇宙空間に漂う遮光器土偶をイメージしたゲートを作製した（写真1）。



写真1 特別展エントランス

ゲートをくぐると「人類700万年の旅路」として、人類発祥とその進化についての紹介がある。展示品には人類頭骨化石（複製）のアウストラロピテクス・アフリカヌス、ホモ・エルガスター、ホモ・ネアンデルターレンシスのほか、岩手県熊穴洞穴出土の縄文晩期人頭骨をホモ・サピエンスとして直線的に配置した（写真2）。そして導入部突き当りには、入場者を迎えるような形で青森県八戸市風張I遺跡出土の国宝「合掌土偶（複製）」を展示した（写真3）。

【第1章】

後期旧石器時代を紹介。岩手県花泉で発見されたハナイズミモリウシの復元全身骨格標本（複製）を中央に配し、その手前に代表的な狩猟具であるナイフ形石器（秋田県家の下遺跡出土）を対置させた（写真4）。大きな動物と小さな狩猟具とのサイズの違いを視覚的に感じてもらうことをねらったものである。このほか、後期旧石器人がいかにシステムティックなモノづくりを行っていたかを紹介する石刃技法の展示、狩猟具から読み取れる地域性と狩猟集団のキャンプの一場面を想起させる芹川館跡の展示、日本の旧石器時代では稀少な装飾品の展示を行った。ウォールケースの壁面には当時の環境をイメージした亜寒帯針葉樹林の写真を6mにわたって掲示した（写真5）。



写真2 人類進化の歩み

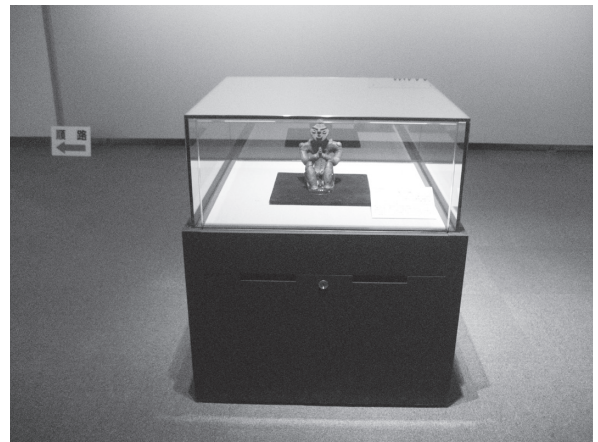


写真3 合掌土偶（複製）でお出迎え

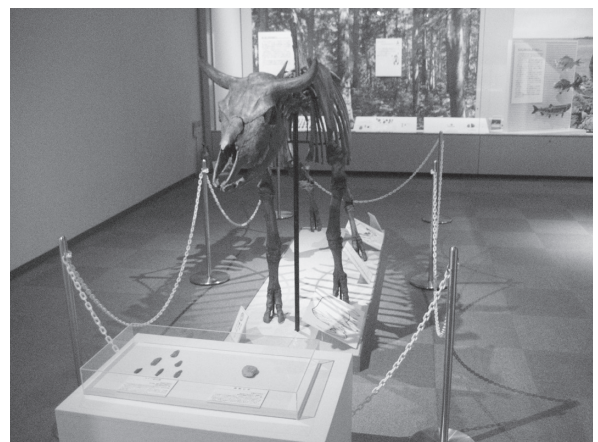


写真4 ハナイズミモリウシと狩猟具



写真5 旧石器時代の展示

【第2章】

第1章と第2章の境にはトピックスとして気候変動に関する近年の研究成果をパネルで紹介した。

第2章は生物部門の協力を全面的に得て縄文時代の自然体感ゾーンとした(写真6)。北東北の豊かな自然を理解してもらうことは本展示において欠かすことのできない要素であることから、この第2章は一つの要として重視した。周囲の壁面はブナ林等の写真で囲み、縄文人と深くかかわったであろう動植物標本を露出展示した。これらの展示物にはあえてキャプションをつけず、情報はすべてiPadに入れた。観覧者が標本名等を知りたい場合は、解説員がiPad上で説明するという試みを行った。

また、縄文時代前期と晩期の土器片を5m四方に散布し、そこから完形の土器が立ち現れるようなイメージで露出展示を行った。縄文人が自然の中で、初めて化学反応を利用して作った人工の利



写真6 縄文時代の自然体感ゾーン

器に注いだエネルギーを感じ取ってもらうことを目的とした。

【第3章】

北東北の縄文人が作った工芸品を紹介した。配列としては最初に縄文時代前期と後晩期の土器の展示をおいた。前期の土器は大館市池内遺跡と青森市三内丸山遺跡の円筒下層式土器を展示、後晩期の土器は秋田県南部や北秋田市森吉山ダム関連遺跡群の十腰内I式や大洞式土器を時期・器種別に展示した。列島においてもっとも縄文が多用された円筒下層式と縄文芸術の最後のピークを飾る大洞式を対照展示することにより縄文土器の奥深さを感じてもらうことをねらった(写真7)。



写真7 縄文土器の展示

また、青森県外ヶ浜町今津遺跡出土の鬲状三足土器を展示し、大陸との交流の可能性も紹介した。

つぎに縄文時代における漆器の技術水準の高さを紹介するために、北秋田市漆下遺跡や五城目町中山遺跡の漆器製作に関わる出土品と秋田市戸平川遺跡出土の藍胎漆器や漆塗り土器などの漆製品を展示した。また、「美石器」と称したくなるような美しい仕上がりの石器や精神・物質文化の豊かさと流通の広がりを示す装飾品などを紹介した。石器に関しては、ほかにも日本で初の珪質頁岩採掘遺跡の発見となった秋田県三種町上岩川遺跡群の露出展示を設けた(写真8)。

第3章の最後には「森の民・海の民」として、縄文人が自然界の動物をどのように認識していたかに焦点を当てた(写真9)。クマ・サル・鳥・イノシシなどの動物形土製品や岩手県花巻市アバクチ洞穴出土のクマの頭骨・犬歯、葦窪遺跡の狩

猟文土器（複製）、ベンケイガイ製腕輪等を展示し、北東北における狩猟・漁撈について紹介した。とくに北東北ではクマ猟と関わる出土品が特徴的にみられる点を強調した。



写真8 縄文鉱山の露出展示



写真9 森の民、海の民

【第4章】

縄文人の作ったモノの中からとくに土偶を中心にピックアップして展示を構成し、今回の特別展の柱の一つとして位置づけた。2009年、大英博物館で開催された「The Power of Dogu」展以来、国内は空前の土偶ブームである。今回、本特別展は企画段階からの遅れがあったため、すでに他館で借用が決まっていたものが多く、それ以外の土偶を複製も含めてリストアップしていく作業が非常に難航した。結果的に重要文化財の「大型土偶頭部」（文化庁蔵・岩手県立博物館保管）のほか、複製ではあるが青森県つがる市亀ヶ岡遺跡出土「遮光器土偶」（原品は重要文化財）、長野県茅野市棚畑遺跡出土「縄文のビーナス」（原品は国宝）、同県同市中ツ原遺跡出土「仮面土偶」（原品は重

要文化財）など、土偶の中でも一般の関心が高い資料を借用することができた（写真10）。これらと当館所蔵の重要文化財である「人面付環状注口土器」、「大型磨製石斧」等を展示室中央の空間に集めて、来館者の注意を引くように、周囲を暗めの照明に設定して展示品にスポット照明をあてる展示手法を採った。



写真10 重要文化財の展示エリア

それら以外の100以上に及ぶ土偶・岩偶はウォールケースの幅約7mにわたって、おおよその時期ごとに分類して一斉展示した（写真11）。

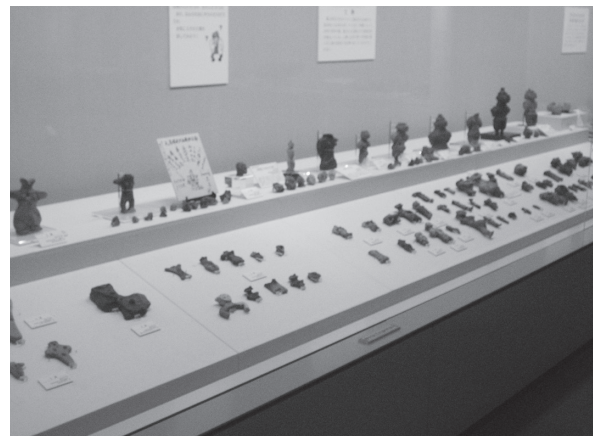


写真11 土偶の展示

土偶展示の隣には、祈りに関連させて「縄文の性と生」として展示を配置した。ここでは男性・女性を表現した資料に始まり、出産の姿勢を表現していると考えられる土偶、乳幼児の手形・足形土版などを展示し、縄文人の「命をつなぐことの祈り」を紹介した。

【第5章】

本章は弥生時代・古墳時代の展示である。弥生

時代的なモノ（遠賀川系弥生土器や石包丁、炭化米）と縄文時代的なモノ（石鎌や石匙等の狩猟具・加工具）、続縄文時代的なモノ（後北式土器・黒曜石）を対照展示し、南の文化と北の文化の接点となった北東北の地域的特異性を浮き彫りにすることをねらった（写真12）。



写真12 弥生・古墳時代の展示

【第6章】

奈良・平安時代の秋田を中心に紹介し、①律令国家の歴史に組み込まれる様子、②自然災害と鉄生産、③清原氏と後三年合戦を中心に展示を構成した。①は秋田城・払田柵跡・湯ノ沢F遺跡・岩野山古墳群等の出土品を中心に展示し、律令と「蝦夷・俘囚」、北東北の名産品である「馬」と「荻藻」について紹介した（写真13）。②は鉄生産の中央からの技術移転、10世紀の十和田火山の噴火と復



写真13 末期古墳の副葬品展示

興について展示し、あわせて墨書土器や呪符木簡など、律令国家的祭祀のあり方についても紹介した。③では秋田市虚空蔵大台滝遺跡や横手市大鳥山遺跡等、清原氏関連の出土品、個人蔵の後三年合戦絵詞など、地方豪族から清原氏の台頭までを展示・紹介した（写真14）。第5章以前の自然と共生した北東北地方と歴史と画される時代の到来を展示物の違いから印象付けるねらいがあった。



写真14 清原氏関連の展示

【第7章】

激動の平安時代を経たのちに築かれた奥州藤原氏の栄華とその浄土思想についての展示。中尊寺金色堂建立供養願文を紹介するとともに、平泉町柳之御所遺跡出土品の重要文化財を展示した。平安時代以前と比べて、自然資源利用の異同、そして、いったん第6章で影をひそめた「自然との共生」を背景にした、北東北地方で培われた浄土思想について観覧者に考えてもらうことを目的とした（写真15）。

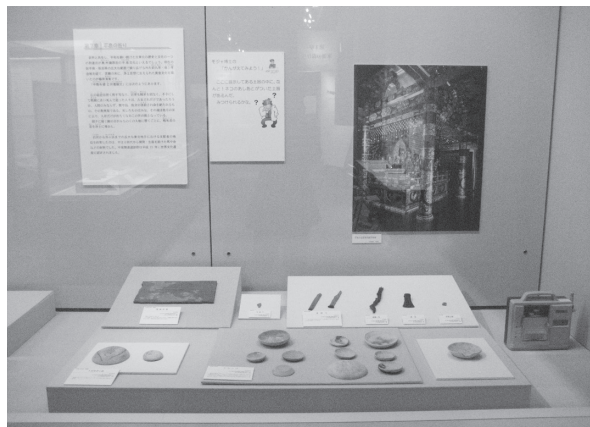


写真15 柳之御所関連の展示

【コラムⅠ：最古モノ】

北東北の出土遺物のうち、最古級とされる資料の紹介した。後期旧石器時代を遡る可能性の高い遠野市金取遺跡第Ⅲ文化層出土石器（複製品）、最古の縄文土器の年代値が測定された外ヶ浜町大平山元Ⅰ遺跡出土の土器・局部磨製石斧・石鎌と横手市岩瀬遺跡出土の石匙を展示した。（写真16）



写真16 コラム展示

【コラムⅡ：ホンモノ？ニセモノ？】

考古学で真贋を見極めることについて、金取遺跡第Ⅳ文化層出土石器と青森県金木出土の「偽石器」の比較、縄文晩期の異形石器と近代の人の贋作の比較、本物の土偶に近代の人が手を加えた資料などを通して、その重要性和難しさを紹介した。

【コラムⅢ：民俗の世界から】

考古資料を解釈するにあたって民俗資料が参考になる場合があるという点について、五城目町中山遺跡出土の樹皮製品とマタギのワラダ、縄文前期の大型石槍とマタギのクマ猟用の槍先を比較展示して紹介した。

【古代人へのメッセージボード】

旧石器時代の少女、縄文時代の少年、奈良時代の老人からの架空の手紙をパネルで掲示し、入場者がメッセージカードに古代の人へ伝えたいことを書いてもらい、パネルボードに貼付してもらうという趣向で設置した。これを通して、自分たちの住んでいる時代のどのようなところを過去に生きた人々に伝えたいか、観覧者に考えてもらうというねらいがあった（写真17・18）。

架空の手紙の内容とメッセージカードは次のとおり。

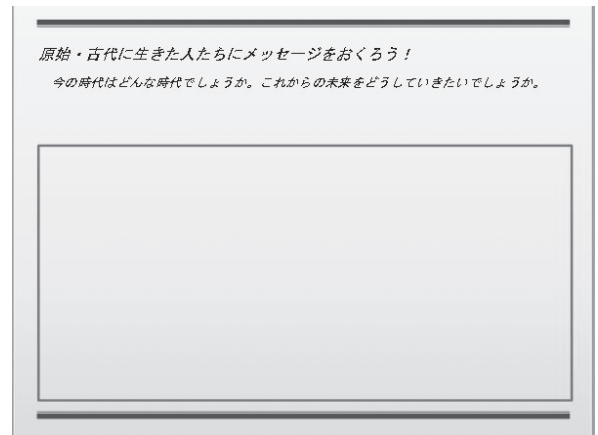


写真17 メッセージカード

～旧石器時代の少女からの手紙～

わたしの住んでいる時代は、みなさんの世界よりとても寒いと思います。冬になっても雪はあまり降りません。寒いのはつらいですが、一族のみんなと狩りをしたり、木の実をひろったり、うたったり、おどったりしながら、毎日をたのしくすごしています。

わたしの住むところは、真っ青な空と大きな夕日、おいしい水が流れる川、おっきなゾウたちがあるく草原がどこまでもつづく、とてもうつくしい世界です。みなさんの住んでいるところはどんな世界ですか？

～縄文時代の少年からの手紙～

おっす！とつぜんだけど、おいらは弓矢の名人をめざしているんだ。今日は、おいら気分がいい！なんせ、一人でイノシシをつかまえたんだからね。ほんとはお姉ちゃんと狩りにいくはずだったんだけど、かあさんと木の実をひろいにいっちゃったんだ。おかげで、おいら一人のお手柄ってわけ。これで、

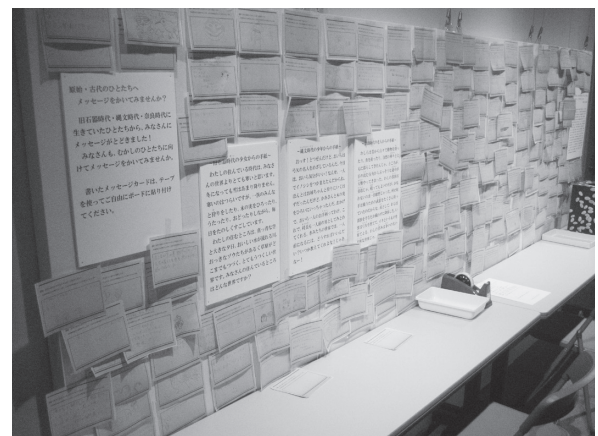


写真18 数多くのカードが貼られたメッセージボード

村長も一人前の男としてみとめてくれる。きみたちの世界では、一人前になるには、どうすればいいんだい？いつか教えてくれよな！じゃあなー！

～奈良時代の老人からの手紙～

わしらは昔から山々で動物を狩ったり、魚を釣ったり、自然の神々とともに暮らしてきたんじゃ。ところが、日の沈む方角からぶっそうな連中が大勢やってきおった。わしの部族は勇敢じゃ。戦ってもよいのだが、かなわないのはい目瞭然じゃった。何せ相手は戦うための武器をたくさん持っていたのだからな。長として、わしは部族を守るため戦わずに降参した。いまは弓矢を捨てて、イネというものを育てとる。わしの望みは争いのない平和な世界じゃ。

【モジャ博士からの質問】

展示コーナーの所々に「モジャ博士からの質問」パネルを掲示した。とくに児童向けに、「縄文土器にはいろいろな文様がある。どうやって付けたか考えてみよう」、「立石遺跡のイノシシはオスカメスかどっちだろうか。じっくり観察してみよう」など、展示品の観察を促したものである。

⑤展示手法—露出展示とディスプレイ—

本特別展では、北東北の自然と原始・古代文化を観覧者に肌で感じてもらうことが一つの目的であった。このため、第2章では自然を体感する動植物標本の展示のほか、縄文土器片を一面に散布させた展示（写真19）、第3章では縄文鉦山の展示（写真8）、第6章では古代製鉄の展示（写真20）など、原始・古代人がモノ作りに注いだエネルギーを感じ取ることでできるよう、インパクト性に富んだ露出展示を試みた。なかでも縄文土器片等の散布資料は、もとの収納コンテナに戻せる



写真19 縄文土器片の露出展示

ように資料の一点一点にコンテナ番号をシールで貼付するという作業を行った。手間と時間がかかるため、大学の博物館実習生やインターンシップの高校生に手伝ってもらっての作業となった。

第2・3章ではさらに北東北の自然に育まれた縄文文化を観覧者がイメージできるように、展示背景にブナ林や海の写真をロール紙に印刷し、展示物を囲むように掲示した（写真21）。

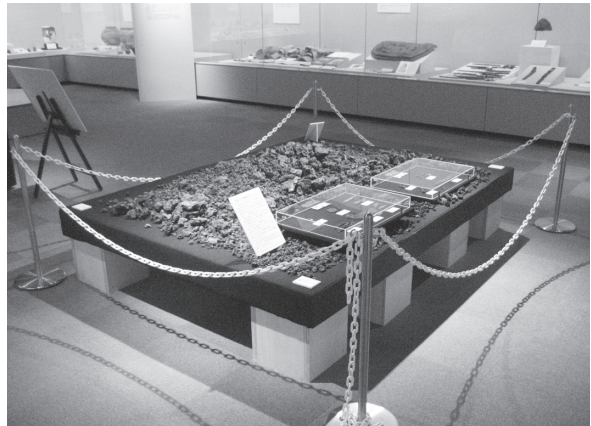


写真20 古代製鉄の露出展示



写真21 動物標本とブナ林



写真22 旧石器末～現代までの年表

また、1万年間に及ぶ縄文時代の長さを体感してもらうために、縄文時代から現代までの長さ7mにわたる年表を掲示した（写真22）。

8. 付帯事業

以下の付帯事業を実施した。

①ギャラリートーク

期間中6回実施した。導入部から始まり、最後のコラムまで、所要時間は1時間から1時間30分で参加者のニーズや状況に合わせて説明の内容と時間を変えながら行った。

②古代発見★ミステリーツアー！

親子で参加して楽しめることを目的として、期間中5回実施。バックヤードを見学しながら、資料の搬入口から大型エレベーターにのって特別展に向かうルートを設定した。リニューアルオープン前の当館で展示していた縄文人を見学ルート上の大型エレベーター内に乗せ、ミステリーカードを持たせるといった演出上の工夫もした。参加者はミステリーカードに書かれたナゾを学芸職員とともに解きながら展示を見て回るという形式を採った。

③特別講演会

11月3日（土）文化の日、午後1時から3時まで、明治大学名誉教授（考古学）の大塚初重氏をお招きし、「ひと・いのち～考古学からのメッセージ～」と題してご講演頂いた。雨の降る足もとの悪い中ではあったが、参加者は約150名あり、非常に盛況であった。

④世界文化遺産登録推進事業写真パネル展

秋田県生涯学習課文化財保護室との連携で、「北海道・北東北の縄文遺跡群」写真パネル展をロビーにて実施した。期間中、来館者が足を止めてパネルを観覧する姿がよく見られ、特別展への導入部としての役割を果たした。

⑤「笑う岩偶」レプリカ製作体験

本特別展で展示している北秋田市白坂遺跡出土の「笑う岩偶」について、期間中、当館わくわくたんけん室にてレプリカ製作体験を実施した。型に石膏を流し込んで着色する体験であるが、期間限定とあって、非常に人気があった。合計で延べ80名の利用があった。好評であったため、特別展

終了後も個数を限定して、製作体験を年内継続した。

⑥特別展記念グッズ販売・特別展記念ランチメニュー

当館ミュージアムショップにて、特別展を記念して、土偶の形をしたドラ焼きと煎餅、土偶絵はがき、土偶レプリカを販売した。また、喫茶では開催日から10月中まで「熊鍋」を1杯300円で提供した。

9. アンケートと会場の聞き取りから

①アンケートと聞き取りの内容

アンケートについては当初、メッセージボードがあったことから実施しなかったが、メッセージカードに展示の感想を記入する例が多々見受けられたので、10月中旬からアンケートを実施した。回答数は98名であった（図2～8）。

年齢層については、10代以下が40%、40～60代が46%と多かった一方で、20代～30代が8%、70代以上が4%と少なかった。10代以下は小学生が中心で、学校へのチラシの配布およびタイトルが効果的だったことがアンケート及び会場での聞き取りから分かった。

性別は、男女ほぼ同数であった。従来、本県で開催した考古学系の展示といえば男性の比率が高い印象があったが、今回は女性の入場者が多かったことが特徴の一つである。

どのようにして特別展の情報を知ったかについては、「ポスター・チラシ」が35%と多く、次いで「来館して」20%、「知人から」11%、「新聞」10%、「学校から」7%、「テレビ・ラジオ」6%の順になった。

満足度は、「満足」が78%と大多数で、次に「ふつう」18%、「不満」3%の順であった。アンケートからは概ね満足のいく展示であったことがうかがえる。

展示の難易度については、「ちょうどよい」が59%と過半数で、次に「やさしい」27%、「難しい」12%の順であった。

観覧料は、「ちょうどよい」が59%と過半数で、次に「安い」22%、「高い」12%の順であった。

また、自由記入欄ではプラス面とマイナス面として次の諸点が挙げられた（一部抜粋）。

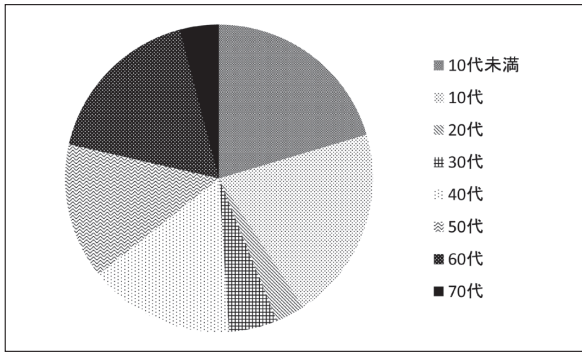


図2 年齢構成

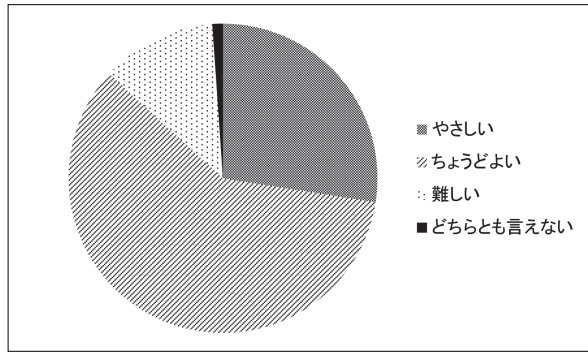


図6 難易度

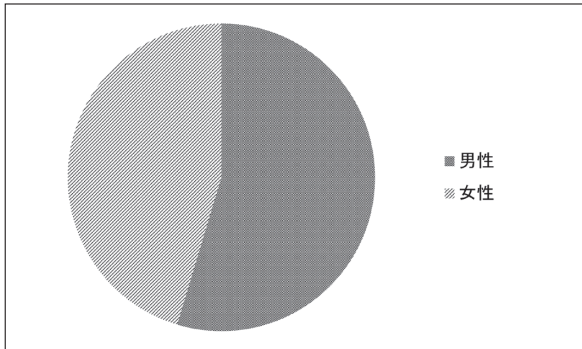


図3 性別構成

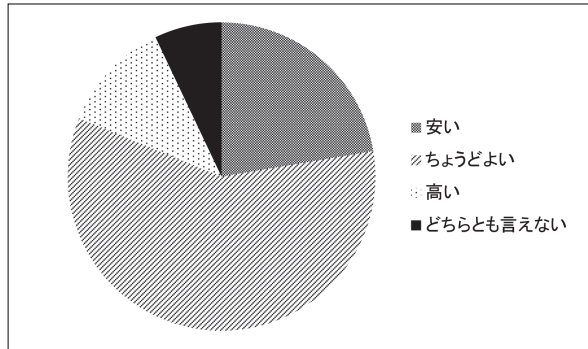


図7 観覧料金

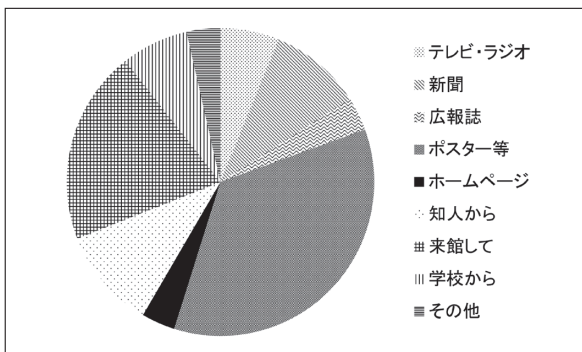


図4 周知方法

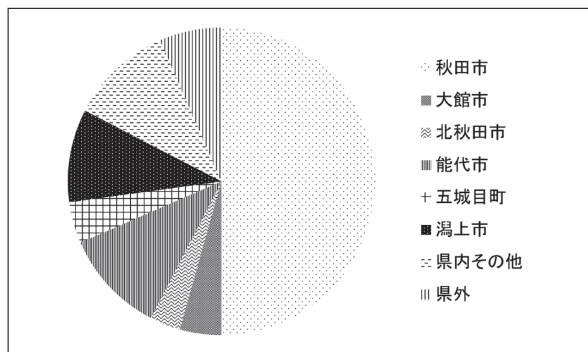


図8 住まいの場所

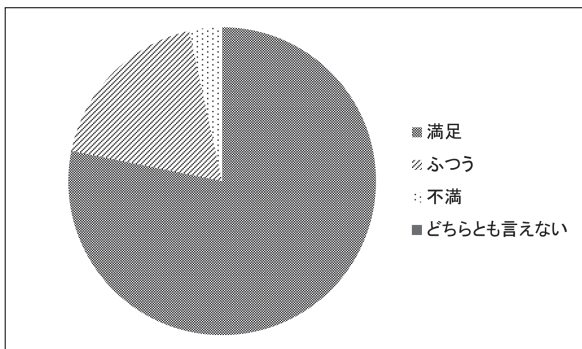


図5 満足度

【プラス面】

- ・職員や係りの方の説明がとても分かりやすかった。
- ・大変よい企画で、楽しめた。
- ・第2章の自然と縄文土器の展示が、縄文の世界

- に引き込まれて、とてもよかった。
- ・展示導線が工夫されていて引き込まれた。
- ・時間が足りなかった。もっとゆっくり見たかった。
- ・昔ってすごいな、と思った。
- ・素晴らしい絵巻物をみれて、来て良かった。
- ・教科書で昔見たものを実際に見ることができて、とても素晴らしく、心に残った。
- ・今まで興味なかったが、今回のはとても分かりやすく、面白く、勉強になった。
- ・沢山の展示品があって見応えがあった。
- ・秋田にもこんなにすごいものがあるなんて、知らなかった。
- ・「アンダー×ワンダー！」というタイトルに惹

かれてきた。インパクトは大事。

- ・テーマがよく伝わった。
- ・刀が一番良かった。楽しい体験をありがとう。
- ・教科書でしか見ることのできなかつた土偶を見られて感動。
- ・モジャ博士のクイズも勉強になった。

【マイナス面】

- ・取り扱う時代を縄文時代だけに限定した方がよりテーマが明確になった。
- ・重要文化財などをもっと仰々しく展示した方がよかった。
- ・一つ一つの展示品にもっと詳しい説明パネルがほしかった。
- ・説明が不十分で、良い資料が並んでいるのにその良さが伝わってこなかった。
- ・もっと手で触れられるコーナーがあっても良いと思う。
- ・もっと宣伝してほしい。
- ・動物標本にもキャプションがほしかった。
- ・照明にもう一工夫ほしかった。
- ・展示品の数が少なく、迫力不足。もっと量を多く展示してほしい。
- ・展示品の製作された時代の背景についてもう少し解説してほしい。
- ・小さい子供が見るのはいいがマナーの向上をもっと呼びかけてほしい。

②古代へのメッセージボードから

アンケートとは違うが、観覧者が展示をどう見たかについては、メッセージカードの内容にも反映されている。メッセージボードには、原始・古代人へ宛てた内容から、展示の感想、絵にいたるまで多様なカードが集まった。ここでは内容の一部を紹介する。

- ・こんにちは！今は戦争がないけど前に争ったことは無駄じゃないから！
- ・生きた証を残してくれてありがとう！
- ・動物を大切にす気持ち、良いと思う。
- ・私はこの自然を大切にしていきたいと思ったよ。
- ・私たちは原発というとんでもないものを作り、それが事故を起こして大地を汚して人が住めない場所になってしまいました。本当に愚かなこ

とをして申し訳ない限りです。自然とともに生きてこられた皆さんに学び直さねばなりません。

- ・昔の人は色々と知恵を使ってすごいと思いました。昔の人を見習いたいです。
- ・生きるためにたくさんの物を作ったことがすごいと思います。これからの未来も頑張ろうと思います。
- ・ありがとう、縄文人！
- ・私が気持ちよく住んでいられるのは、昔の人々のおかげです。
- ・たくさんの土偶があつてすごいと思いました。きっと一人一人の思いがあつてつくつたのかなと思いました。がんばれー、縄文人。
- ・昔の人はあまり食べるものもなく、かわいい服もなく大変ですね。がんばってください。さようなら！
- ・拝啓、古代の人へ。もうすぐこちらは秋です。肌寒い季節になりました。昔のあなた達の生活が今では展示されています。私達はいまシェールオイルを発見したことで秋田でも日本に貢献できる日がもうすぐです。お互いがんばろう。
- ・昔の人はとても頭が良かったんだね。
- ・今の川は汚くて飲めません。
- ・ロクロのない時代にあれほど形が整った土器を作つた縄文人の集中力はすごいと思つた。今の時代に足りないのはそれだと思つた。
- ・今は昔と違って色々な物が発達していますが、昔の方が自然など豊かでいいなあと思つた。
- ・色々な土偶を見てなんと表現すればよいのか見つかからない不思議な気持ちになりました。便利な世の中に生きている私達・・・。ときどき古代のことを考えるのも良いかも!!
- ・こんにちは。私達はずっと先の未来の子供です。今はあなた達の時代のことが研究されています。マンモスの骨とか土器、ひょっとしたらあなたの人骨も見つかるかもしれませんね。
- ・Interesting how after they stopped making “Dogu” they started planting rice. Were the “Dogu” created to represent aliens who gave them the seeds to plant rice and then left

earth, so they stopped making “Dogu” ?

- ・古代と現代の文化にはほとんど差がないことを改めて感じました。ここから人類が発展していったのですね！
- ・自然にさからわないで、あらそいのない未来にしたい。
- ・昔になくなった人は、今の私たちを作ってきた人だと思った。

③アンケート結果等の検討

年齢層と性別について今回は、アンケート結果のみならず、会場で実見した印象においても女性と子供の入場者数が通常の考古学に関する企画展示より比較的多かった。この理由の一つには、親しみやすい「遮光器土偶」をポスター・チラシにあしらったこととアミューズメント性に富んだ「アンダー×ワンダー！」というタイトルにあったことがアンケートや会場での声から分かる。

周知方法については、アンケート結果からは意外にマスコミ効果は低いという結果が出た。しかし、アンケートには反映されなかったが、たとえば11月2日に地元紙で紹介記事が載ると、入場者数が200名増加しており、一定の効果はあったことが分かっている。会場の聞き取りでも、新聞などに紹介記事が載ったので見に来たという人が多く見られた。マスコミ等での宣伝の結果として足を運ぶ来館者の数は、今回のアンケートには反映されにくかったようである。

満足度と難易度については、「満足」が8割近くと高い結果が出たものの、難易度では「ちょうどよい」が6割弱とやや低めの値が出た。会場からの声では「もう少し個々の展示品の説明がほしい」という声がいくつかあった。展示デザインと合わせて今後の検討課題である。

観覧料であるが、アンケートや会場での聞き取りには一部「高い」という声があった。また、受付も同様の声を拾うことができたし、さらには「お金を払うんだ」という声すらあった。これは当館の常設展と企画展が無料であるということと無関係ではないだろう。

さて、アンケートと聞き取りの声のプラス面を見ると、従来は考古学にさほど関心を抱いていなかった人も、本展示を通して北東北の先史・古代

文化に興味を持つことができたとの感想が複数見られ、所期の目標は達成し得た感がある。ただ一方で、全くそれとは反対に、テーマがなかなか伝わらなかったという意見もあった。

また、展示品数に対する印象が全く逆の反応があった。これは展示方法に問題があったのかもしれない。今回は「土器」や「土偶」、「石器」などを一斉にまとめて展示した「集合展示」が多く、指定文化財をさほど特別扱いしなかった。ある人は集合された展示品一つ一つに関心が払われた結果、「展示品が多い」と感じるし、また別の見方で見る人は、集合展示を「一つの展示物」として見て、結果、「展示が少ない」と感じたのではないだろうか。一点一点にスポットを当てて、ある種、美術館的な展示方法を採用すれば、展示品数に関する印象ももう少し変わっただろう。また、観覧者の求める情報量の多寡が印象に与える影響も大きいだろう。

メッセージボードからは、展示企画側の意図に沿った声以外に、たとえば「縄文時代の方が不便で大変な時代」というような内容もまとまてみられた。展示を見た結果なのか、元々のイメージが払拭されなかったのかは今回、明らかにできなかった。

ところで、企画展示室入り口のチケット売り場に立つことによって、アンケートや会場での聞き取りには反映されない非入場者の声を拾うことができる。特別展へ入場しない人の声としては、「ここから先は有料なんだ。じゃあ、いいや」、「土偶とか土器とかいってもわかんないし」、「難しそう」という声が多かった。また、無料で観覧できる子供だけ入れさせるという場面も多く見受けられた。

当館は入館無料であることが有料展への入場の足取りを重くさせているのかもしれない。とくに、特別展受付での入館者の様子を観察していると、わくわくたんけん室で子供を遊ばせることが主目的である場合、入場料を払ってまで特別展を見ようとするケースは非常に少なかったようである。そうした中でも、「アンダー×ワンダー！」というタイトルに惹かれて見学したが子供たちが館内で多く見られ、それにつられて入場する保護者

も見られた。

10. おわりに

今回の展示では考古ファン以外の集客を促した点で、当初の目的を達成することができた。とくに第2章の展示については、「自然の中にいるみたい」、「一面に散らばった土器のカケラの迫力がすごい」など評判が非常に高く、観覧者の印象に強く残ったようである。第4章についても、「こんなに土偶を一気に見られる機会なんてない」、「展示の方法がきれい」と好評だった。

展示品の選別にあたっては出だしが遅かったため他館ですでに出品が決まっているものがあった。そのため、まだあまり知られていない見応えのある考古資料を選ぶように心がけた。また、一般には公開展示されておらず収蔵庫に保管されているが、是非とも紹介したい資料をなるべく地域的偏りの出ないようにリスト化して紹介した。その結果は「普段は見られないものをたくさんみれてよかった」、「これらをすべて個人で見に行こうとすると大変だ」という観覧者の声に反映されている。

古代人へのメッセージボードは、当初設置してもカードに書いてくれる人はいないのではないかとの不安があったが、会期の早い段階で小学校の団体見学があり、10名ほどの児童がカードに記入の上、ボードに貼付してくれた。これがきっかけとなって、結果的には227枚のメッセージが掲示

され、それ自身が一つの展示物として観覧者を楽しませることになった。

前述した展示趣旨を完全に達成できたかということ、やはり不完全燃焼の感は否めない。とくにテーマが伝わったかどうかについては、アンケート結果にもあったように、展示内容がテーマに追いついていなかったという点は否定できない。それは今回の展示が半年強という短い準備期間で対象を浅く広く扱ったことによるのだろう。このため、各資料について深く掘り下げられなかったことと、焦点がぼやけてしまったところが反省としてあげられる。

本特別展を通して、当館としては考古部門以外の部門協力により、総合博物館としての利点を展示に生かすことができた。これは観覧者の声に十分に反映されており、今後、「秋田学の構築」を目指す当館として試金石となった。また、資料調査によって、県内に眠る貴重な考古資料を幾つか再発見し、もう一度光を当てることができた。今後、当館や地域の資料館での展示・活用につながっていく可能性が見えた。

文化や社会の画一化が進行することへの危惧が唱えられている昨今において、原始・古代は列島各地で様々な地域文化が花開いていたことがこれまでの考古学的研究成果により明らかになりつつある。考古資料を通して北東北における秋田の「地域性」を発信する博物館としての役割と重要性を再認識することができた。